アイルランドにおけるフットボールの歴史に関する研究②

—GAA設立期のゲーリックフットボールのルール（1884～1887）について—

榎　本　雅　之

1．はじめに

アイルランドには独自の民俗フットボールが存在し、特に18世紀に入ってから盛んに行われていた。しかし、19世紀半ばにアイルランドを襲った大飢饉[1]により、各地で行われていた民俗フットボールは衰退した。これに代わる形で、英国からの近代フットボール（1860年頃からラグビー、1870年頃からサッカー）がアイルランドで行われるようになる。[2] 1880年代頃になると、近代的なフットボールの代表的な形式であるラグビーフットボールとアソシエーション式フットボール（以下、サッカー）が、特にベルファストやダブリンといった都市部でそれぞれのクラブを形成していく。[3] このような英国スポーツの侵攻に危機感を覚えたMichael Cusack[4]は、自国のスポーツを保護し、発展させるためにGAA（Gaelic Athletic Association：設立当初の正式名称は、Gaelic Athletic Association for the Preservation and Cultivation of National Pastimes）を1884年に設立する。GAAはハーリングやゲーリックフットボール、主要なアスレティック種目の公式ルールを制定[5]し、その奨励に務めた。GAAの設立期において、その主要な活動はハーリングやゲーリックフットボールの復興よりも、アイルランド人のためのアスレティック大会を運営することだった。[6] GAAは設立とともに「野火のように国中に広がった」[7]と形容される。しかし、この設立期の段階では、ゲーリックフットボールは現在のようにGAAの主要な活動でなく、その関心は低かった。また、GAAによってゲーリックフットボールがアイルランドに紹介されたとき、すでにラグビーとサッカーが行われており、アイルランド式のフットボールは人々に完全に理解されるのは難しかった。[8] GAA設立期において、ゲーリックフットボールはアスレティック大会の副次的なイベントでしかなかった。[9]

1887年、GAAによる全国大会、オール・アイルランド・チャンピオンシップス（All Ireland Championships）がスタートした。しかし、最初の大会の決勝が開催されるのは、翌1888年になってからだった。また、この大会にエントリーしたのは、たった7カウンティで、アルスターとコナートからのエントリーはなかった。この傾向はしばらく続き、1890年、GAAの加盟クラブ数は777クラブにもなっていたが、前年開催されたオール・アイルランド・チャンピオンシップスの決勝ラウンドに参加したのは、6つのカウンティだった。[10] この最初の全国大会は、参加カウンティも少なく、決勝も同年に開催されなかった[11]ことから大会自体は成功したとはいえないが、それ以降毎年開催され、現在ではGAAスポーツを象徴す

る一大イベントとなっている。したがって、この全国大会の開催はGAAスポーツ史において非常に重要な役割を果たしたと言えよう。

ゲーリックフットボールの存在が、イングランドから流入する二つの近代スポーツに対抗できるようになったのは、いくつかの特別な試みによる。例えば、全てのゲーリック・ゲームを日曜に行うことを決定したことである。余暇時間の少ない労働者を取り込むとともに、カソリック教区ごとに結成されていたクラブは、日曜のミサの後、教区の若者たちをGAAの活動に取り組むことに成功した。この決定は同時に、GAAに所属するプロテスタント教徒を疎外することとなったが、それ以上に、これまでゲームに参加できなかった人々に、参加する機会を提供した。また、もう一つ例をあげると、サッカーやラグビーでは、一つの試合会場で一試合しか行われないのに対して、ゲーリックフットボールでは、数試合行われる傾向にあった。つまり、観衆は一度の入場料で、３試合程度の試合を観戦することができた。加えて、ラグビーやサッカーの試合では認められなかったビールテントやブックメーカーの試合場への設置の許可も、ゲーリックフットボールが他の二つのフットボールに対抗することができた理由[12]と考えられる。

GAAによって導入されたゲーリックフットボールは、初期の段階から多くのルール変更を繰り返し、近代スポーツとして洗練されていく。GAAスポーツは最初の統一ルールの策定から全国大会を開催するまでのわずか３年の間に、いくつかの大きなルール改定を行った。[13] このルール改定は、全国大会の開催に何らかの影響を与えたのだろうか。Joe Lennon (2001)[14] は、ハーリングやゲーリックフットボールに関して、GAA設立以前のそれぞれのルーツと考えられるルールからGAAが発行した2010年までのルールを収集している。Lennonの研究はルールの収集に留まり、それぞれのルールの変更点について検討されていない。また、Mahon (2000)[15]、Fullam (2004)[16]、Corry (1989、2009)[17] はGAA設立期のルールの変更点についてゲーリックフットボール史を叙述する中で指摘している。Mahonは、1886年の変更点として、「プレイヤーがレスリングすることや手で捕まえることは禁止。５フォーファットポイントは１ポイントとなる。」[18] と指摘している。また、FullamやCorryは設立期のゲーリックフットボールのルールについて若干の指摘を行っている。例えば、FullamはGAA設立期の特徴的な得点の種類について「ポイントはゴールに変換できない。フォーファットポイント（５点で１ポイント）は、守備側の選手が最後にボールに触り、得点が入るところ以外のゴールラインを越えた時に相手側のチームに与えられる。」[19] と説明している。他にも、グラウンドのサイズや試合開始方法など、変更されたルールに関して指摘している。これらは詳細に述べられているものの、実際のルールとの検討が行われておらず、何がどのように変更されたのか或は変わらなかったルールがあるのかという点に関しての指摘がなされていない。さらにKing (1998)[20] は、ハーリング史を叙述する中で、GAA設立期のルール変更について、「近接する地域では、伝統的なゲームのルールに共通点はあるが、距離が離れると全く異なったルールになる。初期のゲームは実験的な性質を持っていた。」[21] と述べており、GAA設立期のルールは「実験的」であったことを指摘して

いる。

以上のことから、本研究では、GAA設立期のゲーリックフットボールのルール変更について検討し、GAA設立期のゲーリックフットボールのルール改定について明らかにすることを目的とする。本研究では、GAA設立期のゲーリックフットボールのルールを詳細に検討するために、GAA設立時に制定されたゲーリックフットボールのルールと1886年11月の年次総会で変更されたルールを比較する。GAA設立時のルールは、1885年２月７日の*United Ireland* 紙に掲載されたルールを用い、変更されたルールは、1887年にGAAによって発行された公式ルールブックに掲載されたルールを用いる。

２．GAA設立から最初のルール変更後のゲーリックフットボール

Garnhamは、初期の段階では、ゲーリックフットボールはGAAの主要な活動ではなく、GAAにとっても一般の人々にとっても、その関心は低かった。アイルランドの観衆を引きつけていたのは、特徴的なアイルランドのスポーツであるハーリングだった。フットボールは様々な形式があり、アイルランド式のフットボールは完全に理解されていなかった[22]と述べている。実際、GAAが設立された1880年代には、ラグビーやサッカーがアイルランドでプレーされており、GAAの「新たな」フットボールがすぐに人々に受け入れられたとは考え難い。とはいえ、1887年から全国大会の開催を行うことからも見て取れるように、最初のルール変更時には、一定の競技人口が存在していたと考えられる。

1884年11月にGAAが設立される。その後、GAAの公式ルールが制定される前に、GAAによるフットボールの試合がKilkennyとBamfordの間で１月14日に、WhitegateとBayannaの間で１月29日に行われた。[23] GAA設立期において、統一ルールを作成する以外、ゲーリックフットボールを復活するための目立った活動を行っていない。それでもなおこの時期、ゲーリックフットボールの試合がマンスターを中心に数多く行われた。[24] Corkでは、いくつかのラグビークラブがGAAに所属を変えたが、ラグビーのルールでプレーしていた。こういったことに対して、Cusackは1885年４月に、GAAルール下では、「ボールを持って運んではならない」と宣言した。これに対して、Corkの一部のGAAクラブは、Munster National Football Associationを設立し、GAAルールとは異なる独自のルールでプレーし始めた。[25]

GAA設立時に制定されたDavinのルールには、ほとんどゴールが生まれないという大きな欠陥があった。1886年４月に行われたゲーリックフェスティバルで６試合行われたが、唯一１ゴールが生まれただけだった。５月、DunlearyがGrocers' Assistants相手に１ゴール生み出したのが、その月に生まれた唯一のゴールだった。得点が生まれないことに対して、非公式に、クロスバーを「オーバー」した場合、得点としていた事例があり、７月４日の会議では、エンドラインを５回越えた場合、それを１ポイントとすることが提案された。また、レスリングとつかみ合い(handgrips)が禁止となった。これに対して、４日後にWaterfordで開かれた会議では、レスリングなどが禁止となることを「ゲーリックルールを

転覆させるものだ」と主張し、「プレイヤーの膝より下をつかむことを禁止するほうが適している」と提案した。８月に、Wexfordカウンティ委員会は、カウンティ内のチャンピオンシップスを企画した。Michael DugganのRosslareチームはEdward PierceのLady's Islandチームに２トライ対０で勝利した。ここでの「トライ」は、エンドラインを「オーバー」したことだと考えられる。[26]

1886年のゲームには特徴的な以下のルールがあった；ボールをグラウンドから手で拾い上げてはならない、手や腕のノックオンは認められる、ボールを運んだり投げたりしてはならないが、ボールをキャッチしてもよい。フリーキックは、手で落としてから行うのではなく、グラウンドに置いた状態で行われなければならない。[27]

1886年10月10日に、得点がなかなか生まれない状態を打破するために、現在のゴールポストからそれぞれ21ヤード離れた位置にポイントポストを建てることを検討し、11月１日までに、試用期間を設け、新たなルールの導入の実験が行われた。この試用期間に、WicklowとWexfordの二つのカウンティの対抗戦が行われた。それぞれ６つのクラブが出場し、30分のゲームが行われた。12,000人もの観衆を集めたが、サイドラインのロープから観衆が溢れ出そうであり、エンドラインにいたっては、ロープすら準備されておらず、人々がゴールとエンドラインを埋め尽くしていた。このような状態でありながらも、新たなルールの導入は成功していた。この日の試合で、１ゴール、15ポイント、３フォーファットポイントが生まれた。[28]

この当時のゲーリックフットボールの試合は、英国産の二つのフットボールと異なる雰囲気で行われるようになっていた。つまり、政治的、愛国的な様相を同時に生じさせていた。ゲームは、アイリッシュ・ダンスやアイルランドの詩の朗読などとともに、文化的な祭りの中心だった。[29]

1886年11月15日、ThurlesのHayes'HotelでGAAの年次総会が開催された。およそ80のクラブの代表者が出席し、そのうち３分の２はマンスターのクラブだった。この会議では、Davinによって提案されたハーリング、ハンドボール、ゲーリックフットボールのルール改定が認められた。ゲーリックフットボールのルールは、ハーリングに幾分似たルールとなった。ピッチサイズは、ハーリングより少し小さめの大きさとなり、レスリングは禁止された。安全のため、靴に釘や鉄を埋め込むことは禁止された。また、この時、ハーリングとゲーリックフットボールのチャンピオンシップの規定も定められた。[30]

４．設立期GAAのルールについて

ゲーリックフットボールの最初のルールは、GAAの初代会長であるMaurice Davinによって起草された。DavinはCarrick-on-Suir Amateur Athletic, Cricket and Football Clubのメンバーだった。クラブはフットボールにほとんど関心を向けていなかったが、Davinはイングランドのフットボールを含めた国内外のフィールドスポーツの研究からゲーリックフット

ボールのルールを起草した。[31] このルールは、1885年１月の会議で承認され、２月７日発行の*United Ireland* に掲載された。このルール（資料１）の特徴は以下のとおりである。

・プレイヤー数が14人以上、21人以下となっており定まっていない：第１項
・グラウンドに関する規定（最低縦120ヤード、横80ヤード）：第３項
・ゴールは、横15フィート、縦８フィートと非常に小さい形である：第４項
・試合開始の際、中央に全員が集まり、２列に並んだ状態でスタートする：第５項
・反則（後ろから押すこと、引っかけること、捕まえること、頭突き）：第６項
・反則を犯した場合の退場の規定：第６項
・試合時間は１時間で、30分でサイドの交代がある：第７項
・レフリーの権限及び職務：第２項、第10項

先行研究では、この最初のルールに対して、レスリングを禁止する規定がない[32] こと、オフサイドやどれだけの間ボールを保持できるのかの規定がない[33] ことを指摘している。

このルールは1885年と1886年のおよそ２年間、GAAの公式なゲーリックフットボールのルールとして用いられた。この時期、GAAのスポーツ活動は、主にアスレティック大会の運営が中心だった。[34] 1886年11月15日に行われた総会で、全国大会（All Ireland Championships）の開催が準備されるとともに、ゲーリックフットボールのルールも変更された。このルール（資料２）の特徴は以下の通りである。

・21人制のグラウンドの大きさの規定（縦140ヤード、横84ヤード）：第１項
・プレイヤー数が14人以上、21人以下となっており定まっていない：第２項
・レフリーの権限及び職務：第３項、第11項
・エンドラインにはゴールアンパイアの追加：第３項
・ゴールは横21フィート、縦８フィート、ゴールポストからそれぞれ21フィート離れてポイントポストの設置：第４項
・試合開始の際、中央に全員が集まり、２列に並んだ状態でスタートする：第５項
・反則（後ろから押すこと、引っかけること、後ろから捕まえること、膝から下をつかむこと、頭突き）：第６項
・反則を犯した場合の退場の規定：第６項
・試合時間は１時間で、30分でサイドの交代がある：第７項
・ボールがコートから出た場合の再開方法(サイドラインから出た場合はアンパイアが、攻撃側の選手によって、ボールがゴールラインを越えた場合、守備側の選手にフリーキックが、守備側の選手によって、ボールがゴールラインを越えた場合、１ポイント攻撃側に与えられる)：第８項
・得点（ゴールした場合、１ゴール、ポイントポストの間をボールが通過した場合、３ポイント、守備側の選手によって、ポイントポスト間を除いたゴールラインをボールが通過した場合、１ポイント）：第８項
・プレー方法について（手でボールを打つことの許可、グラウンドからボールが離れた

時、ボールを取ることの許可、ボールを持った際、それを蹴ることは許可するが、運んだり、前に投げたりすることは禁止）：第10項

この二つのルールを内容ごとに比較する（表）。変更点及び変更しなかった点は以下の通りである。

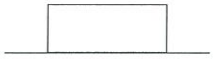
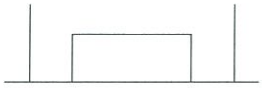
変更点

- グラウンドサイズの拡大（縦120ヤード→140ヤード、横80ヤード→84ヤード）。
- ゴール幅の拡大（横15ft→21ft、縦は変更なし）。
- ポイントポストの導入。
- 得点（ゴールが同じ場合、ポイント数で決定）。
- ゴールアンパイアの追加。
- パーソナルファールに膝から下をつかむことの禁止を追加。
- 退場の時間に関して「レフリーが適当と考える時間」を追加。
- フリーキックに関する条文追加。
- テクニカルファール（手でボールを打ってもよい。グラウンドからボールが離れた時、ボールをとっても良い。選手はボールをキャッチし、それをどんな方法で蹴ってもよいが、運んだり、前に投げてパスしたりしてはいけない）を追加。

変更のない点

- プレイヤー数（14人以上21人以下）。
- 試合時間（１時間：30分ハーフ）。
- 試合前のセレモニー（キャプテンによるサイド選択のトス、試合開始前に中央に全員が集まり、２列に並んだ状態でゲームがスタートする。
- パーソナルファール（後ろから押すこと、引っかけること、捕まえること、頭突き）変更なし。
- 靴に釘や鉄をいれることの禁止。
- 服装（ニーブリーチと靴下、靴を着用）。

表. ゲーリックフットボール ルール比較

1884	1887	変更点
プレイヤー数		
14人以上21人以下	14人以上21人以下	変更なし
グラウンドサイズ		
縦120ヤード、横80ヤード	縦140ヤード、横84ヤード	サイズ拡大
試合時間		
１時間（30分ハーフ）	１時間（30分ハーフ）	変更なし
ゴール		
		
ゴールポスト間15フィート	ゴールポスト間21フィート	ゴールの横サイズの拡大（15ft→21ft）
ゴールバーの高さ８フィート	ゴールバーの高さ８フィート	ゴールバーの高さ変更なし
	ゴールポストからポイントポストへのキョリ21フィート	ポイントポストの導入
得点		
ゴールポストの間、ゴールバーの下を追加した時に、ゴール	守備側の選手によって、ボールがゴールラインを越えた時１ポイント、ポイントポスト間で、ゴールに入らなかった場合、３ポイント、ゴールに入った場合、１ゴール	ポイントの導入
勝敗の決定		
ゴール数	ゴール数、ゴール数が同じ場合ポイント数	ポイントの導入
試合前セレモニー		
キャプテンによるサイドを選択するためのトス 試合開始の際、中央に全員が集まり、２列に並んだ状態でスタートする	キャプテンによるサイドを選択するためのトス 試合開始の際、中央に全員が集まり、２列に並んだ状態でスタートする	変更なし
オフィシャル		
レフリー１名、アンパイア２名	レフリー１名、アンパイア２名、ゴールアンパイア	ゴールアンパイア追加
反則（パーソナルファール）		
後ろから押すこと、引っかけること、捕まえること、頭突き	後ろから押すこと、引っかけること、捕まえること、頭突き、膝から下をつかむこと	膝から下をつかむことが追加
ひどい反則行為を犯した選手は退場、選手の補充はできない。	ひどい反則を犯した選手は、レフリーが適当と考える時間退場、選手の補充はできない。	退場の時間を「レフリーが適当と考える時間」
	ルール違反があり、レフリーが適当と認める時、フリーキックを与える。	フリーキックについて追加
	フリーキックは地面から行い、相手側の選手はボールが蹴られるまで、14ヤード以内に近づいてはならない。	フリーキックについて追加
反則（テクニカルファール）		
	手でボールを打ってもよい。グラウンドからボールが離れた時、ボールをとってもよい。選手はボールをキャッチし、それをどんな方法で蹴ってもよいが、運んだり、前に投げてパスしてはいけない。	テクニカルファール追加
その他		
靴に釘や鉄をつけてはならない。（靴の裏に革切れをつけるとスリップを防ぐことができる）	選手の靴に釘や鉄をつけてはならない。足の裏に革の破片を滑り止めのためにつけることを推奨する。	変更なし
ハーリングやフットボールの服装は、ニーブリーチ（膝が隠れる丈のズボン）と靴下、靴を着用する。	ハーリングやフットボールの服装は、ニーブリーチ（膝が隠れる丈のズボン）と靴下、靴を着用する。	変更なし
各選手は白と暗い色の2種類のジャージーを用意しておくと良い。クラブの色を着用することができる。そして、試合が行われる時、着用する色が決定される。		記述なし

5．おわりに

以上の点から明らかになったことを以下に検討する。

①ルールの変更に関しては、これまで先行研究で指摘されていたことに加え、ポイントポストが導入されるとともに、ゴールアンパイアも審判の一員として追加された。

②これまで指摘されてこなかった変更されなかったルールは、プレイヤー数が14人以上21人以下とあいまいなままであったこと、試合時間、試合前のセレモニー、パーソナルファール、靴に釘や鉄をいれることの禁止、服装に関する規定である。

GAA設立期のゲーリックフットボールのルールにおける問題点は、得点がなかなか入らないことだった。その解決策として、グラウンドを広げることで、選手を分散させ、ゴールの形の変更と得点方法を増やした。また、ラグビーやサッカーとの違いを明確にするためか、詳細なテクニカルファールの項目が追加された。ゲーリックフットボールは、ハーリングほど特徴的でないためか、ラグビーやサッカーとの違いを明確にしつつ、ゲームのおもしろさを向上させることが初期のルール変更において目標とされた。GAAにとって、設立期にゲーリックフットボールがアイルランドで衰退していたことは、新たなスポーツを導入するという点では、幸運だったのかもしれない。設立時のルールの浸透が不完全であり、競技自体も全国的な広がりを見せる前だったことが、大きなルール変更を可能にし、GAAの理想とするゲーリックフットボールを作り出せることとなったのではないか。

資料１．GAAの最初のルール（*United Ireland*、1885年２月７日）

１．プレイヤーは14人以上、21人以下とする。

２．２人のアンパイアとレフリーを１人おく。２人のアンパイアの意見が異なる時、レフリーが最終決定を下す。

３．グラウンドは最低縦120ヤード、横80ヤードの広さが必要で、正確な境界線を引かなければならない。境界線はフェンスから最低５ヤード離れていなければならない。

４．ゴールポストはそれぞれのゴールラインの中央に立てる。ポスト間は15フィートで、グラウンドから８フィートの高さにゴールバーを置く。

５．それぞれのチームのキャプテンは、試合開始前に、サイドを選択するためのトスを行う。選手は、ボールが投げ入れられるまで、お互い向かい合って２列に並ぶ。選手は向かい合う相手選手と握手をする。

６．後ろから押すこと、引っかけること、捕まえること、頭突きは反則だと考えられ、ひどい反則行為を起こした選手は、退場を命じられ、以後、試合に参加してはならず、代わりの選手の補充もできない。

７．実際の試合時間は１時間とする。サイドは30分で交代する。

８．勝敗はゴール数によって決する。試合でゴールが無かった場合、引き分けとする。ゴールとは、クロスバーの下のゴールポストの間にボールが通過することである。

9．ボールがサイドラインを超えた時、ボールを出した相手チームの選手によって投げ入れられる。仮にボールが自陣のゴールラインを超えた場合、反対側のチームによって、どの方向にも投げ入れられる。仮にボールが相手サイドのゴールラインを超えた場合、ゴールキーパーのラインから、フリーキックを行う。いかなる選手も、キックが行われるまでキックを行う選手のおよそ25ヤード以内に近づいてはならない。

10．アンパイアとレフリーは、選手がルール６に設定されたような不正と考えられるような行為をした時、選手を失格にすることや、退場させプレーを続けさせないために、試合中、全力を注がなければならない。

靴に釘や鉄をつけてはならない。（靴の裏に革切れをつけるとスリップを防ぐことができる）

ハーリングやフットボールの服装は、ニーブリーチ（膝が隠れる丈のズボン）と靴下、靴を着用する。

各選手は白と暗い色の２種類のジャージーを用意しておくと良い。クラブの色を着用することができる。そして、試合が行われる時、着用する色が決定される。

資料２．1886年改訂のルール（GAA公式ルールブック、1887年）

１．１チーム21人で行う試合のグラウンドは縦140ヤード、横84ヤード、またはそれに近い大きさで行う。グラウンドは正確な境界線が引かれていなければならない。境界線は最低５ヤードフェンスから離れていること。※この大きさよりも大きなグラウンドでも構わない。

２．プレイヤーは14人以上、21人以下とする。

３．２人のアンパイアと１人のレフリーがいる。アンパイア間の意見が異なる時、レフリーの決定が最終である。ゴールとポイントを判定するために、グラウンドのそれぞれのエンドにゴールアンパイアもいる。レフリーは時間を管理し、それぞれのゴールの開始時にスローアップを行う。

４．ゴールポストは、ゴールラインの真ん中でそれぞれのエンドに立てる。それらはそれぞれ21フィート離れており、クロスバーはグラウンドから８フィート離れている。ゴールポストに加えて、ゴールポストから21フィート離れたそれぞれのグラウンドのゴールライン上に、２つの直立したポストがある。ゴールは、ゴールポストの間でクロスバーの下をボールが通過した時、認められる。ポイントは21フィート離れた両方のゴールポストの間で、ゴールラインを超え、またはクロスバーを超えた時、認められる。ポイントは、両方のゴールポストから21フィート離れたポストの間で、ゴールラインを越えた時又はクロスバーを越えた時、認められる。

５．試合開始前、チームのキャプテンはサイドを選択するためのトスを行う。選手はボールがスローアップされるまで、フィールドの真ん中でお互い向かい合って２列に並び、

相手チームの選手と握手を行う。

6．後ろから押すことや引っかけること、後ろから捕まえることを、膝から下をつかむこと、頭突きは反則とみなされ、著しい反則行為を犯した選手は、レフリーが適当と考える時間、退場を命じられる。その選手の代わりの選手を補充することはできない。

7．実際の試合時間は１時間とする。サイドは30分で交代する。

8．選手がボールをサイドラインから出した時、最初にラインを越えた地点から、アンパイアによってボールが投げ戻される。ゴールを通過せずにラインを越えた場合、ゴールキーパーがゴールからフリーキックを行う。相手側の選手は、ボールが蹴られるまで、21ヤードラインより近づいてはならない。守備側の選手によって、ボールがゴールラインを越えた場合、相手側に１ポイント与えられる。両方のゴールポストから21フィート以内のラインを超えた場合、３ポイントが与えられ、ゴール内のラインを超えた場合、１ゴール与えられる。

9．勝敗はゴール数によって決する。ゴールがない場合又はゴール数が同じ場合、勝敗はポイント数によって決する。

10．手でボールを打ってもよい。グラウンドからボールが離れた時、ボールをとってもよい。選手はボールをキャッチし、それをどんな方法でも蹴ってもよいが、運んだり、前に投げてはいけない。※選手がボールを蹴る際にボールを少し前に投げることを妨げるルールではない。

11．ルールが破られた時、レフリーが適当と考えるなら、フリーキックを認めてもよい。このフリーキックはグラウンドから行われなければならない。相手側の選手はボールが蹴られるまで、14ヤードより近づいてはならない。ただし、フリーキックがゴールラインから14ヤード以内で行われる場合、相手側の選手はラインの後ろに立つ必要はない。

12．ボールがレフリーやアンパイアを除くサイドライン近くの観衆に当たった時、プレーが中断したと判断される。ルール８のように投げ入れられる。もし、ゴールライン近くで起った時、プレーが中断したと判断され、ゴールからキックされなければならない。後者の場合、レフリーは適当と考える1ポイント以上を与えることができる。

13．レフリーは選手がルール６に設定されたような不正と考えられるような行為、或は悪質なプレーがあった時、選手を失格にすることや、退場させプレーを続けさせないために、試合中、全力を注がなければならない。

選手の靴に釘や鉄をつけてはならない。足の裏に革の破片を滑り止めのためにつけることを推奨する。

ハーリングやフットボールの服装はでニーブリーチ（膝が隠れる丈のズボン）と靴下、靴を着用する。

注

1 1840年代、約10年間におよぶ飢饉、ジャガイモの不作を契機に様々な要因が重なり、1841年800万を超えていた人口がこの10年間で大きく減少した。（波多野裕造、『物語　アイルランドの歴史』、中公新書、1994, pp. 167-170）一説では，約100万人が死に、さらに100万人が海外に逃亡した。（リチャード・キレーン　鈴木良平訳、『図説　アイルランドの歴史』、彩流社、2000, p. 145）

2 Jack Mahon, *A History of Gaelic Football*, Gill&Macmillan, 2000, pp. 1-4

3 榎本雅之、「アイルランドにおけるフットボールの歴史に関する研究①-1879/80シーズンのIRFU加盟クラブの対外試合の実施状況について-」星稜論苑第33号, 2009

4 Marcus de Burca, *Michael Cusack and the GAA*, Anvil, 1989, pp. 54-70

5 Ibid., p. 113

6 Marcus de Burca, *The GAA, A History* 2nd edition, Gill&Macmillan, 2000, p. 15

7 Ibid., p. 15

8 Neal Garnham, *The Origins and Development of Football in Ireland*, being a reprint of R. M. Peter's *Irish Football Annual* of 1880, Ulster Historical Foundation, 1999, p. 10

9 Burca, *The GAA, A History* 2nd edition, p. 15

10 Garnham, op. cit., p. 11, 12

11 Jack Mahon, *A History of Gaelic Football*, Gill&Macmillan, 2000, pp. 9-11

12 Garnham, op. cit., p. 11

13 Brendan Fullam, *The Throw-in, The GAA and the Men Who Made It*, Wolfhound Press, p. 150

14 Joe Lennon, *The Playing Rules of Hurling 1602-2010, Gaelic Football 1884-2010, Hurling-Shinty Internationals 1933-2000*, Northern Recreation Consultants, 2001

15 Jack Mahon, *A History of Gaelic Football*, Gill&Macmillan, 2000

16 Fullam, op. cit.

17 Eoghan Corry, *The History of Gaelic Football*, Gill&Macmillan, 2009; Eoghan Corry, *Catch and Kick*, Poolbeg, 1989

18 Mahon, op. cit., p.6

19 Fullam, op. cit., p. 150

20 Seamus J. King, *A History of Hurling*, Gill&Macmillan, 1998

21 King, op. cit.,p. 32

22 Garnham, op. cit., p. 10

23 Corry, *The History of Gaelic Football*, p. 23

24 Seamus O Riain, *Maurice Davin, First President of the GAA*, Geography Publications, 1994, pp. 80, 81

25 Corry, *The History of Gaelic Football*, p. 26

26 Ibid., p. 27, 28

27 Ibid., p. 28

28 Ibid., p. 29

29 Garnham, op. cit., p. 11

30 O Riain, op. cit., p. 110, 111

31 Ibid., p.69

32 Mahon, op. cit., p. 9

33 Corry, *The History of Gaelic Football*, p. 22

34 Burca, op. cit., p. 15